

定期接種

B型肝炎ワクチン

予防する病気 B型肝炎およびB型肝炎ウイルスが原因となる肝臓がん

B型肝炎ウイルスは大人が感染すると急性肝炎を発症しそれを乗り切れば治ります。しかし3歳以下の子どもが感染するとキャリア化(体内にいつまでもウイルスを持ち続ける状態)しやすく将来慢性肝炎から肝硬変そして肝臓がんへと進んでいく可能性があります。分娩時の母子感染は減ってきましたが家族や集団保育あるいは性交渉による感染が問題になっています。

ワクチン接種

平成28年10月から定期接種化されます。対象は平成28年4月以降に生まれた子どもです。2か月ごろに1回目を接種しその後4週間以上あけて2回目を接種します。さらに1回目の接種から20週間以上あけて1歳になる前に3回目の接種をします。任意接種として受ける場合はいつでも接種できますが小さいうちに接種したほうが抵抗力(抗体)の上昇がよいことが知られています。